

G ガバナンス体制の強化

社外取締役メッセージ



ステークホルダー視点の経営をめざす

独立社外取締役／監査等委員
高山 靖子

社外取締役に就任され3年目を迎えられました。これまでのご自身の取り組みや、コスモエネルギーグループの変化をお聞かせください。

私は、消費財ビジネスの企業において、リスクマネジメントを含めたサステナビリティ戦略のほか、多様なステークホルダーとコミュニケーション分野を長く経験するとともに、常勤監査役として監査の視点からコーポレート・ガバナンスの強化に携わってまいりました。社外取締役就任後はそれらの経験を活かし、取締役会、指名・報酬諮問委員会、監査等委員会等において、当社グループの活動に対し、株主・投資家、消費者、従業員を始めとするさまざまなステークホルダーの立場からの疑問や気づきを率直に発言させていただいています。執行側においてもガバナンスの側面を中心に前向きに検討いただいており、議論の活性化を通じた実効性向上に多少なりともお役にたっているのではないかと考えております。

サステナブル経営に関してコスモエネルギーグループの取り組みをどのように評価されているかお聞かせください。

当社グループでは、第6次中期経営計画のもと再生可能エネルギー事業の強化を進めていますが、脱炭素化に向けた

急速な社会の変革を受け、2020年度は社内推進体制の再整備を図るべく経営陣全員で議論を進めました。TCFDへの賛同や「2050年カーボンネットゼロ宣言」等はその一例ですが、グループ経営陣全員によるサステナビリティ戦略会議等におけるオープンな議論、迅速な意思決定とその推進力は当社グループの優れた点です。環境以外の分野においてもこれからも取り組むべき課題は少なくないものの、石油事業における安定供給責任を果たしつつ、再生可能エネルギー事業へ軸足を移していくという難易度の高い経営課題に果敢に挑戦していけるものと確信しています。

コーポレート・ガバナンスの評価について、この1年での変化や成長をお聞かせください。

持株会社化と同時に監査等委員会設置会社に移行してまもなく6年が経過、コーポレート・ガバナンスの体制は年々質的に進化し、運用において実効性を高めつつあることを実感しています。取締役会については、毎年実施している実効性評価をベースに社内会議体の役割・機能、議題の選定方法や運営方法等、不断の見直しを進めており、監督機能の強化を図るべく、今年度は独立社外取締役の増員とさらなる多

様性の確保を進めています。監査等委員会においても、三様監査のもとでリスクに対するモニタリングの強化など内部統制の強化が図られています。今後とも監督と監査の両機能の強化と併せ、経営の透明性を高め、ステークホルダーに対する説明責任を確実に果たしていくことがとりわけ重要と考えています。

企業のあるべきステークホルダーエンゲージメントについてお考えをお聞かせください。

私はかつて監査役の立場で初めて機関投資家の方と対話を行った時、経営リスクに対する高い関心と経営陣に対する期待を肌で実感し、対話の重要性を認識しました。社外取締役は株主の負託を受け経営を外部の眼で監督する存在であるからこそ、投資家に対し経営やガバナンスの状況を分かりやすく丁寧に伝えていくと同時に、経営に対する不安や期待をしっかりと受け止め、それらを経営の監督や意思決定に活かしていく責務を担っていると思います。エンゲージメントはまさにそのための重要な機会であり、社外取締役は建設的な対話を通じて投資家と企業との信頼関係を築き、持続的な企業価値向上に向けてともに歩むための仲介役の役割を果たしていくべきではないかと考えています。

新任社外取締役メッセージ



経験を活かして持続的成長へ貢献

独立社外取締役
井上 龍子

コスモエネルギーグループへ期待することをお聞かせください。

日本政府は、2050年カーボンニュートラルをめざす旨宣言しましたが、その実現には、多くの革新的技術開発が前提となるため、引き続き、環境対応しつつ、石油等をうまく活用していくことが重要と理解しています。コスモエネルギーグループが行っている石油、再生可能エネルギーの各事業は、食料の安定

供給を始めとする国民生活の基盤となっています。未来に向けた総合的なエネルギー事業の持続的発展を期待します。

社外取締役として求められる役割と実現したいことをお聞かせください。

中央省庁・在外公館等での勤務、弁護士としての経験を踏まえて、持続的成長と企業価値の向上、ガバナンスのさらな

る充実に、少しでも貢献できればと考えています。新型コロナウイルス感染症等が社会変容を迫り、国内外でさまざまな官民対応が進められる中で、例えば、データ・情報の管理、ICT・デジタル化の取り組み等についても、留意していきたいと思います。



VUCAの時代での経営への一助を担う

独立社外取締役／監査等委員
浅井 恵一

コスモエネルギーグループへ期待することをお聞かせください。

現在はVUCAの時代と呼ばれています。Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を合わせた造語です。

こんな先行きの予測のできない経営の舵取りが難しい時代の中、石油開発か

ら再生可能エネルギーまでを網羅した幅広い事業領域とポートフォリオを持っている強みを活かして社会から必要とされる企業グループであり続けていただきたいと思います。

社外取締役として求められる役割と実現したいことをお聞かせください。

コスモエネルギーグループが長期的

な企業価値の向上、継続的発展を維持していくには①環境対応という社会的課題の解決、②収益力のさらなる強化が必要と考えます。この2つをグループとして遂行していく経営判断のサポートを行うことが役割と考えています。さまざまなステークホルダーの立場からモニタリングを行い微力ながら私のこれまでの経験、知見を活かせれば嬉しく思います。